

本事業に取り組むエリア(自治体名)	北海道札幌市厚別区地域	
本事業の実施主体	札幌訪問看護ステーション協議会会員の厚別区内の管理者	
本事業に参画する団体名	札幌訪問看護ステーション協議会会員の厚別区内の管理者、北海道総合在宅ケア事業団 札幌厚別訪問看護ステーション 石井美智代、事業団看護部 土井正子(看護部長)、車谷香織(主幹)	
地域の状況	①人口	12万人
	②地域の特徴	札幌市内でも厚別区は市営住宅が多く、エレベーターのない住宅も多い。大きな河川はないが隣接する市や区には大きな河川がある。
	③災害等の歴史	昭和56年札幌市内の豊平川の洪水、江別市石狩市の石狩川の洪水があり、国道とJRの交通網が麻痺した。平成30年北海道胆振東部地震の後のブラックアウトがあった。
	④在宅医療ケア資源と病院等との連携	厚別区内の急患を受け入れてくれる総合病院は2件で、当ステーションの訪問看護指示書の発行医療機関は半分以上が厚別区外になる。
	⑤その他特記事項	
地域の課題	①これまでの被災経験・コロナ対応で特筆すべきこと	ブラックアウト時は利用者への安否確認が他職種と重複していた。コロナ禍では近隣のステーションの様子がわからなかった(物品の不足や閉鎖など)。
	②連携型BCP・地域BCPとして考えるようになった理由	札幌訪問看護ステーション協議会の役員活動で他区のステーションの現状を知った。また自ステーションのBCPを作成する過程で連携型や地域のBCPが必要だと考えた。
	③わが地域のBCP観点からの課題	1)設置主体の異なる在宅サービス提供機関が複数あり、地域を視点とした有事の体制に関して、事業所間の認識が不明。 2)厚別区内の訪問看護ステーション間で、日常的なつながりが希薄でBCPの必要性や知識が共有されていない。 3)厚別区内ではエレベーターのない5階建て市営住宅で整備されていない移住環境にいる要介護者等に、有事の際にはサービス事業間での効率的な活動が必要。
	④その他特記事項	
取り組み内容と目標	今年度のプラン	1)訪問看護の連携型BCPの策定 ・有事の時の訪問看護指示書の発行の確認 ・有事の時のケアプラン変更の依頼 ・それぞれのステーションでのトリアージのすり合わせ ・看護手順書の作成 ・シミュレーション訓練の実施 ・バックアップシステムのルールとマニュアル作成 2)スケジュール ・3~5月 管理者会でバックアップシステムの標準型の提案と検討 ・7~9月 管理者会でルールの検討と整理、トリアージのすり合わせ ・11~1月 管理者会でバックアップシステムのマニュアル作り、ステーション間のシミュレーション訓練実施